

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード		05-04-01		戦略プラン		☐ 協働 ☒ 業務 ☐ 財務 ☐ 人事		
事務事業名		ゆいの森あらかわの管理運営		部課名		地域文化スポーツ部ゆいの森課		
				課長名		青谷		
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（6年度）		01-02-01		事務管理費				
		01-03-01		事業運営費				
事務事業の種類		☐ 新規事業（ ☐ 6年度 ☐ 5年度）		☐ 建設事業		☒ それ以外の継続事業		
開始年度		平成 28（ 2016 ）年度		根拠		荒川区立ゆいの森あらかわ条例		
終期設定		☐ 有 ☒ 無（ ）年度		法令等				
実施基準		☐ 法令基準内 ☐ 都基準内 ☒ 区独自基準		計画区分		☒ 計画 ☐ 非計画		
行政評価事業体系		分野		V 文化創造都市				
		政策		10 活力ある地域コミュニティの形成				
		施策		02 地域文化とコミュニティの拠点づくり				
目的		ゆいの森あらかわの適切な維持管理により施設の長寿命化を図るとともに、生涯学習や地域コミュニティの拠点となるよう、ゆいの森あらかわにおいて、中央図書館、吉村昭記念文学館、子どもひろばの3つの機能が有機的に融合した事業や他部署や他機関と連携した事業を展開するほか、ボランティア活動の支援を行う。						
対象者等		ゆいの森あらかわ利用者						
内容		【開 設】平成29年3月26日 【所 在 地】荒川区荒川2-50-1 【土地面積】4,111㎡ 【延床面積】10,944㎡ 【構 造】鉄筋コンクリート造 地上5階地下1階 【開館時間】午前9時～午後8時30分 【主な事業】 ・中央図書館、吉村昭記念文学館、子どもひろば等の各機能が連携した講演会やイベント等を開催 ・地域コミュニティの拠点として、他部署や他機関と連携した事業の展開及びボランティア活動を支援						
経過		平成28年 3月 管理運営方針の策定 6月会議 設置条例制定 平成29年 1月 竣工 3月26日 開館（開館時間 午前9時30分～午後8時30分） 4月～5月 開館記念イベント開催 平成30年 3月 テーブル・座席の増設、館内サインの追加製作 令和 2年 4月 新型コロナウイルス感染拡大防止による臨時休館（4月8日～5月29日） 令和 4年 5月 午前9時開館の実施（開館時間 午前9時～午後8時30分）						
必要性		ゆいの森あらかわの運営により、区内全体の知とコミュニティの醸成を図るため、世代や地域、目的が違う人々が集い、交流と体験を通して、知の集積や発信、新たな知的文化活動の誘発や企画が生まれる施設の必要性は高い。						
実施方法		（ 2一部委託 ） （ 直営の場合 ☐ 常勤職員 ☐ 会計年度任用職員 ） 夜間総合受付・設備維持管理・清掃・警備・植栽管理業務等を委託						
指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			3年度	4年度	5年度	6年度見込み	目標値(8年度)	
	①	ゆいの森あらかわ入館者数	510,961	618,902	684,244	700,162	732,000	ゆいの森あらかわ・地域図書館
	②	ボランティア活動者数	140	129	185	156	150	
③								
事務事業の分類			分類についての説明・意見等					
6年度		7年度						
推進		重点的に推進		安全・安心で快適な施設運営と設備の適正な維持管理を図り、地域コミュニティ及び文化振興の拠点として、3つの機能を生かした事業を重点的に推進する。				

(単位：千円)

行政コスト計算書

備考

問題点・課題

問題点・課題の改善策

①

施状況

議 会 質 問 状
況（要旨）

・平成28年度決特	ゆいの森あらかわの周知について、ボランティアの活用について
・平成29年度決特	サインの見直しについて、カフェの運営について、 事業者と連携したイベントの実施について
・平成29年度予特	適切な施設管理について、魅力あるイベントについて
・令和6年6月会議	企画・展示の更なる充実について

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード	05-04-02		戦略プラン	● 協働	○ 業務	○ 財務	○ 人事	
事務事業名	子どもひろば運営費		部課名	地域文化スポーツ部ゆいの森課		課長名	青谷	
			担当者名	増田、田中		内線	2256	
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（6年度）		01-05-01	子どもひろば運営費					
事務事業の種類	○ 新規事業（○ 6年度 ○ 5年度）		○ 建設事業		● それ以外の継続事業			
開始年度	平成 29	（ 2017 ）	年度	根拠	一時預かり実施要綱			
終期設定	○ 有 ● 無		（ ）	年度				法令等
実施基準	○ 法令基準内 ○ 都基準内 ● 区独自基準		計画区分	○ 計画 ● 非計画				
行政評価 事業体系	分野	V 文化創造都市						
	政策	10 活力ある地域コミュニティの形成						
	施策	02 地域文化とコミュニティの拠点づくり						
目的	子どもたちが多様な体験や学びによって、将来の夢を育む支援を行う。また、乳幼児とその保護者や小中学生の安全な居場所を提供する。							
対象者等	主に中学生以下の生徒、児童、乳幼児とその保護者							
内容	【乳幼児（主に遊びラウンジ）】 絵本館との融合を図りながら、雨の日でも遊べる成長に合わせた室内遊具を設置。保育士の見守りにより、簡単な育児相談も実施。 【児童、生徒（主に学びラウンジ）】 40種類を超える体験キットや理科実験等のワークショップを実施するほか、放課後の居場所を提供。 【一時預かり】 区内在住の未就学児（生後6か月以上）、かつ、ゆいの森利用者が対象。 ①1時間単位で最大3時間まで ②定員4名 ③月の利用限度：一人当たり21時間 ④費用：1時間当たり500円（兄弟姉妹同時利用の場合は、二人目以降250円）							
経過	平成21年11月 複合施設の設置及び運営に関する懇談会の設置 平成23年 7月 （仮称）荒川二丁目複合施設基本計画策定 平成28年 3月 管理運営方針の策定 6月会議 設置条例制定 体験キット、星空学習ソフト、デジタル地球儀など小中学生を対象とした体験事業を開発 平成29年 3月26日 開館 令和2年3月26日～4月7日 新型コロナウイルス感染症の影響により、サービスを休止 4月8日～5月29日 新型コロナウイルス感染拡大による臨時休館 令和2年4月～ 乳幼児一時預かりを委託から直営に変更 7月～ 新型コロナウイルス感染症の影響により、定員制限のうえ再開 令和5年5月8日～ 5類移行後は、感染対策を継続して運営							
必要性	子どもたちの安全な居場所や自主的な学びの場を提供するとともに、子育て世代のコミュニティの場として活用されており、必要性は高い。							
実施方法	(1直営) (直営の場合 ● 常勤職員 ● 会計年度任用職員)							
指標	事務事業の成果とする指標名		指標の推移					指標に関する説明
			3年度	4年度	5年度	6年度 見込み	目標値 (8年度)	
	①	遊びラウンジ利用者数	15,283	19,033	24,919	31,822	39,000	子どものみ
	②	体験キット貸出件数	4,417	8,607	11,497	14,621	27,000	
③	一時預かり利用率（％）	58.5	55.4	61.9	64.2	65.0		
事務事業の分類			分類についての説明・意見等					
6年度		7年度						
重点的に推進		重点的に推進		乳幼児とその保護者や小中学生の居場所として子どもひろばの充実を図っていくとともに、未来を担う子どもたちに様々な体験を提供し、将来へ夢を育む場となるよう、重点的に推進する。				

予算・決算の内訳								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報酬等	会計年度任用職員（日額）報酬・旅費等	7,964	報酬	会計年度任用職員（日額）報酬・旅費等	7,152	報酬	会計年度任用職員（日額）報酬	8,010
報償費	講師謝礼	101	職員手当	臨時職員期末手当	1,290	職員手当等	会計年度任用職員（日額）期末・勤勉手当	2,784
旅費	会計年度任用職員（日額）通勤費	161	報償費	講師謝礼	147	報償費	講師謝礼	219
需用費	消耗品費等	1,807	旅費	会計年度任用職員（日額）員通勤費	176	旅費	会計年度任用職員（日額）通勤費	260
役務費	デジタル地球儀通信料等	103	需用費	消耗品費等	1,923	需用費	消耗品費等	2,167
委託料	ワークショップ委託等	943	役務費	デジタル地球儀通信料等	103	役務費	デジタル地球儀通信料等	103
備品購入・償還金	備品購入、補助金返還金	952	委託料	ワークショップ委託等	956	委託料	ワークショップ委託等	2,299

備考	行政費用では、主に給与関係費が多くを占めている。また、物件費の減少は、備品購入費の減によるものである。行政収入では、乳幼児一時預かり利用料（その他）が増加している。
問題点・課題	・学びラウンジについて、時代のニーズを踏まえた体験キットの製作や、ワークショップ等の実施を検討する必要がある。 ・遊びラウンジについて、子育て世代の交流の場として、交流の促進及び子育て情報の提供を図る必要がある。

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード		05-04-03		戦略プラン		☒ 協働		☐ 業務		☐ 財務		☐ 人事	
事務事業名		中央図書館運営費		部課名		地域文化スポーツ部ゆいの森課		課長名		青谷			
				担当者名		佐藤		内線		2256			
事務事業を構成する小事業名 及び予算事業コード（6年度）		01-04-01		中央図書館運営費									
事務事業の種類		☐ 新規事業（ ☐ 6年度 ☐ 5年度）				☐ 建設事業		☒ それ以外の継続事業					
開始年度		平成 28（ 2016 ）年度		根拠		図書館法、荒川区立ゆいの森あらかわ条例、荒							
終期設定		☐ 有 ☒ 無（ ）年度		法令等		川区豊かな心を育む読書のまちづくり条例							
実施基準		☐ 法令基準内		☐ 都基準内		☒ 区独自基準		計画区分		☒ 計画 ☐ 非計画			
行政評価 事業体系		分野		V		文化創造都市							
		政策		10		活力ある地域コミュニティの形成							
		施策		03		「読書のまちづくり」の推進							
目的		図書資料や図書館オンラインシステムを充実させ、関係機関と協力して読書活動に親しむ多様な事業展開を行うことによって、子どもたちの読書環境の整備や区民の読書活動を推進し、利用者の課題解決や生涯学習を支援する。											
対象者等		図書館利用者、その他図書館等関係機関											
内容		○多様化するニーズに応え、課題解決を支援できるよう、一般的な資料から専門的な資料まで幅広く購入し、誰でも利用しやすい環境を整え提供する。 ○30万冊規模の開架の書架等を活用した、特集コーナー等の設置やイベントでの関連図書資料の展示など、図書資料の積極的な活用を行う。 ○大規模な蔵書を効率的かつ効果的に管理し、良質なサービスを提供する。 ○絵本館、現代俳句センターなど、特徴となる資料の収集・提供を行い、俳句資料については、現代俳句協会との協定に基づき、関係部署と連携しながら事業を進める。 ○読書を楽しむまち・あらかわ宣言及び豊かな心を育む読書のまちづくり条例に基づき、地域図書館、学校図書館、街なか図書館が連携し、本が身近にあるまちづくりを進める。 【蔵書規模】 開架30万冊、閉架30万冊 【資料】 書籍 AV 雑誌 新聞紙											
経過		昭和37年 3月 荒川図書館開館 平成5年10月 図書館オンラインシステム稼働、平成10年 5月 南千住図書館開館 平成18年 4月 「これからの図書館調査懇談会報告書」、「荒川区子ども読書活動推進計画」策定 平成20年 7月 第1回柳田邦男絵本大賞を創設、「特色ある図書館づくり」を目指し、分担収集開始 平成23年10月 「荒川区子ども読書活動推進計画（第二次）」策定 平成28年 4月 「荒川区子ども読書活動推進計画（第三次）」策定 平成29年 3月 中央図書館閉館（旧館である荒川図書館は平成28年12月に閉館） 平成30年 5月 「読書を楽しむまち・あらかわ」宣言 令和3年 4月 「荒川区子ども読書活動推進計画（第四次）」策定 令和5年 4月 「荒川区豊かな心を育む読書のまちづくり条例」施行											
必要性		多様化するニーズと課題に対応し、区民の読書活動や生涯学習等を支援し、自ら課題を解決することができる環境づくりに必要な事業である。											
実施方法		（2一部委託）（直営の場合 ☐ 常勤職員 ☐ 会計年度任用職員） 配本車運行業務、図書館オンラインシステム機器保守委託、図書資料装備委託等											
指 標	事務事業の成果とする指標名			指標の推移					指標に関する説明				
				3年度	4年度	5年度	6年度 見込み	目標値 (8年度)					
	①	区民1人当たりの蔵書冊数（冊）	4.42	4.48	4.48	4.56	4.8	（全館）蔵書点数÷住基人口					
	②	区民1人当たり個人総貸出点数（点）	10.17	10.26	10.26	9.7	10.0	（全館）貸出点数÷住基人口					
③	個人登録者数（人）	84,714	88,823	88,823	106,000	130,000	（全館）4月1日現在						
事務事業の分類				分類についての説明・意見等									
6年度		7年度											
重点的に推進		重点的に推進		豊かな心を育む読書のまちづくりを推進していくにあたり、中央図書館は核となる拠点であるため、重点的に推進する。									

No2 (単位：千円)									
予算・決算額等の推移		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	
予算額		135,861	143,584	149,673	215,540	147,028	152,590	167,320	
決算額（6年度は見込み）		130,022	132,219	138,218	202,069	137,340	144,938	167,320	
実績の推移	事項名（6年度は見込み）	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	
	入館者数（人）※中央館のみ	707,295	697,418	355,860	510,961	618,902	684,244	700,162	
	個人総貸出点数（点）※	764,510	727,666	608,091	738,031	744,966	738,892	730,701	
	特集コーナー設置数（回）※	166	210	184	220	282	315	318	
	おはなし会開催回数（回）※	71	65	32	41	75	117	117	
予算・決算の内訳									
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）			
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	
報酬等	会計年度任用職員（日額）報酬・旅費等	16,848	報酬等	会計年度任用職員（日額）報酬・旅費等	17,800	報酬等	会計年度任用職員（日額）報酬・旅費等	23,630	
報償費	各種講座講師謝礼	1,539	報償費	各種講座講師謝礼	1,868	報償費	各種講座講師謝礼	2,150	
需用費	図書資料購入費等	46,199	需用費	図書資料購入費等	49,300	需用費	図書資料購入費等	57,577	
役務費	配本車運行料等	12,651	役務費	配本車運行料等	14,718	役務費	配本車運行料等	19,500	
委託料	図書館オンラインシステム機器保守委託等	31,310	委託料	図書館オンラインシステム機器保守委託等	31,471	委託料	図書館オンラインシステム機器保守委託等	35,177	
使用料及び賃借料	図書館オンラインシステム機器賃借料等	28,420	使用料及び賃借料	図書館オンラインシステム機器賃借料等	28,782	使用料	図書館オンラインシステム機器賃借料等	28,842	
その他	備品購入費・負担金	373	その他	備品購入費・負担金	999	その他	備品購入費・負担金	444	
(単位：千円)									
行政コスト計算書	勘定科目	4年度	5年度	差額	勘定科目	4年度	5年度	差額	
	給与関係費	91,031	89,923	▲ 1,108	地方税等	0	0	0	
	物件費	118,885	125,181	6,296	国庫支出金	105	105	0	
	維持補修費	0	0	0	都支出金	52	52	0	
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0	
	補助費等	1,716	2,085	369	使用料及び手数料	0	0	0	
	減価償却費	0	0	0	その他	427	479	52	
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	584	636	52	
	賞与・退職給与引当金繰入額	4,618	4,611	▲ 7	行政収支差額(a)－(b)＝(c)	▲ 215,666	▲ 221,164	▲ 5,498	
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0	
	行政費用合計(b)	216,250	221,800	5,550	通常収支差額(c)＋(d)＝(e)	▲ 215,666	▲ 221,164	▲ 5,498	
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	24	24	
	特別収支差額(f)－(g)＝(h)	0	24	24	当期収支差額(e)＋(h)	▲ 215,666	▲ 221,140	▲ 5,474	
	備考	行政費用では、ブックスタート及びセカンドブック事業の実施に伴う物件費（消耗品費）が増加した。行政収入（その他）では、コピーサービス使用料が増加した。							
問題点・課題	・新たに制定した「荒川区豊かな心を育む読書のまちづくり条例」の趣旨を踏まえ、様々なイベント等をさらに実施するとともに、誰もが読書に親しめる環境整備を進め、より多様な利用者に向けたサービスの周知や情報発信を行う必要がある。 ・新生児が本に触れ合う最初の機会を提供するための「ブックスタート」や、読み聞かせの習慣を継続するための3歳児への「セカンドブック」の参加率を向上させる必要がある。								
問題点・課題の改善策									
	令和5年度に取り組む具体的な改善内容			令和5年度に実施した改善内容および評価			令和6年度以降に取り組む具体的な改善内容		
①	条例の趣旨を踏まえ、様々なイベントや展示を実施するとともに、多様な利用者に向けた資料収集やサービスの周知を行う。			条例の趣旨を踏まえた様々なイベントや展示を実施した。また、多様な利用者に向けた資料収集やサービスの周知を行った。			条例の趣旨を踏まえた様々なイベントをさらに実施するとともに、より多様な利用者に向けた資料収集やサービスの周知を行う。		
②	「ブックスタート」及び「セカンドブック」を実施するとともに、ボランティア養成講座を継続する。			「ブックスタート」及び「セカンドブック」並びにボランティア養成講座を実施した。			「ブックスタート」及び「セカンドブック」のさらなる周知を図るとともに、ボランティア養成講座についても、継続実施する。		
③									
他区の実況	(実施 22 区 未実施 0 区 不明 0 区)								
中央図書館については全区が設置し、子ども読書推進計画の策定、図書館オンラインシステムの導入がなされている。									
議会（要旨）	・令和2年度 決特 図書館での障がい者サービスについて ・令和2年度 予特 読書を楽しむまちあらかわのPRについて ・令和4年度 決特 電子図書の導入について ・令和4年度 予特 読書活動について（条例を制定する目的、宣言と条例の違いについて） ブックポスの利用状況・増設について、ブックポスの設置場所について								

事務事業分析シート（令和6年度）

No1

事務事業コード		05-04-04		戦略プラン		☒ 協働		☐ 業務		☐ 財務		☐ 人事	
事務事業名		吉村昭記念文学館推進事業運営費		部課名		地域文化スポーツ部ゆいの森課		課長名		青谷			
				担当者名		木次		内線		2256			
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（6年度）		01-06-01		吉村昭記念文学館運営費									
事務事業の種類		☐ 新規事業（ ☐ 6年度 ☐ 5年度）				☐ 建設事業		☒ それ以外の継続事業					
開始年度		平成 18（2006）年度		根拠		荒川区立ゆいの森あらかわ条例							
終期設定		☐ 有 ☒ 無		（ ）年度		法令等							
実施基準		☐ 法令基準内		☐ 都基準内		☒ 区独自基準		計画区分		☒ 計画		☐ 非計画	
行政評価事業体系		分野		V		文化創造都市							
		政策		10		活力ある地域コミュニティの形成							
		施策		02		地域文化とコミュニティの拠点づくり							
目的		荒川区出身の小説家・吉村昭氏及び吉村氏に関連のある作家に関する資料の収集、研究等を行うとともに、同氏の作品等を基盤とした幅広い文化活動を展開することにより、区民の心を育み、区の文化振興に寄与する。											
対象者等		区民等											
内容		○吉村氏に関する資料の収集、整理、保管及びその研究 ○企画展示の計画、展示物の製作などの展示活動 ○講演会や吉村氏・津村氏とゆかりのある地との連携等を通じた、吉村氏と同氏の作品の普及啓発 ○文学館が地域文化の醸成に貢献できるよう、友の会を運営 ○ホームページ等での広報 文学館エリア：約540㎡（ゆいの森あらかわ2階・3階の一部、復元書斎を含む） 入館料：無料											
経過		平成 4年度 吉村昭氏区民栄誉賞受賞（5月）、日暮里図書館吉村昭コーナー設置 平成18年度 吉村昭氏逝去（7月31日） 平成26年度 吉村昭記念文学館友の会設立（3月） 平成28年度 吉村昭記念文学館開館（平成29年3月26日）・開館記念企画展（平成29年7月まで） 平成29年度 日本文藝家協会共催事業（7月）、第2回企画展、おしどり文学館協定締結式（11月5日） 令和元年度 企画展、朗読会（橋爪功氏）、おしどり2周年講演会（出久根達郎氏） 令和 2年度 ウェブ企画展、友の会限定イベント実施 令和 3年度 企画展、朗読トーク映像配信（赤江珠緒氏）、おしどり記念朗読会（津田寛治氏）、講演会（吉村司氏）、友の会限定イベント実施 令和 4年度 企画展、おしどり記念講演会（谷口桂子氏）、講演会（宮島咲氏）、友の会限定イベント実施 令和 5年度 企画展、講演会（本馬貞夫氏）、朗読会（津田寛治氏）実施											
必要性		吉村氏の功績を後世に伝えとともに、吉村昭作品を通してさらに広範な文学の世界に触れる機会を広く区民に向けて提供することで、地域文化の醸成や区のPRにも寄与することから、必要性は非常に高い。											
実施方法		（☐ 一部委託）（直営の場合☐ 常勤職員☐ 会計年度任用職員） 文学館の運営に当たっては、学芸員の資格を有する専門の会計年度任用職員を採用して実施するとともに、専門家の御意見も伺いながら進める。展示製作業務、デジタル写真撮影業務等を委託。											
指標	事務事業の成果とする指標名			指標の推移					指標に関する説明				
				3年度	4年度	5年度	6年度見込み	目標値(8年度)					
	①	文学館来館者数（人）	39,244	46,624	49,234	56,156	70,000						
	②	事業の参加者数（人）	479	596	641	721	800	イベントや講演会等の参加者人数					
③	文学館友の会会員数（人）	470	520	522	587	650	吉村氏の功績や作品を広く周知するための指標						
事務事業の分類				分類についての説明・意見等									
6年度		7年度											
重点的に推進		重点的に推進		企画展の開催や友の会会員向けのイベント等を通して、吉村文学の魅力を区内外に広く発信するとともに、地域文化の醸成を図る事業であるため、重点的に推進する。									

予算・決算額等の推移		30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
予算額		23,438	22,971	21,141	18,422	18,085	17,796	18,468
決算額（6年度は見込み）		16,087	18,531	16,397	16,903	17,197	16,939	18,468
実績の推移	事項名（6年度は見込み）	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
	文学館来館者数（人）	39,638	53,584	32,007	39,244	46,624	49,234	56,156
	事業の参加者人数（人）	678	663	644	479	596	641	721
	文学館友の会員数（人）	359	397	407	470	520	522	587
	吉村作品の貸出数（冊）	1,848	1,814	1,403	1,705	2,032	2,277	2,577

予算・決算の内訳								
令和4年度（決算）			令和5年度（決算）			令和6年度（予算）		
節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）	節	主な事項	金額（千円）
報償費	企画展等謝礼	1,009	報償費	企画展等謝礼	1,159	報償費	企画展等謝礼	1,360
需用費	資料購入・印刷製本	1,757	需用費	資料購入・印刷製本	1,603	需用費	資料購入・印刷製本	1,634
役務費	展示資料等運搬費	5,194	役務費	展示資料等運搬費	5,049	役務費	展示資料等運搬費等	6,063
委託料	企画展展示制作物等	8,080	委託料	企画展展示制作物等	7,823	委託料	企画展展示制作物等	7,869
使用料	著作権使用料	477	使用料	著作権使用料	568	使用料	著作権使用料	685
備品購入費	自筆原稿等購入費	413	備品購入費	文学館備品購入費	430	備品購入費	備品購入費	519
報酬等	会計年度職員報酬・負担金等	268	報酬等	会計年度職員報酬・負担金等	307	報酬等	会計年度職員報酬・負担金等	338

(単位：千円)

勘定科目		4年度	5年度	差額	勘定科目		4年度	5年度	差額	
行政コスト計算書	行政費用	給与と関係費	20,660	21,491	831	行政収入	地方税等	0	0	0
		物件費	15,752	15,427	▲ 325		国庫支出金	80	0	▲ 80
		維持補修費	0	0	0		都支出金	0	0	0
		扶助費	0	0	0		分担金及び負担金	0	0	0
		補助費等	1,197	1,226	29		使用料及び手数料	1	49	48
		減価償却費	0	0	0		その他	1,008	1,174	166
		不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0		行政収入合計(a)	1,089	1,223	134
		賞与・退職給与引当金繰入額	1,262	1,289	27		行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 37,782	▲ 38,210	▲ 428
		その他行政費用	0	0	0		金融収支差額(d)	0	0	0
		行政費用合計(b)	38,871	39,433	562		通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 37,782	▲ 38,210	▲ 428
		特別費用(g)	0	0	0		特別収入(f)	0	0	0
	特別収支差額(f)-(g)=(h)		0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 37,782	▲ 38,210	▲ 428	

備考	行政費用については、給与関係費及び企画展等実施に伴う補助費等（報償費）が増加し、物件費（一般需用費、委託料）が減少した。行政収入では、国庫支出金（地方創生推進交付金）が減少し、特別観覧手数料及び吉村昭記念文学館友の会会費（その他）の収入が増加した。
----	--

問題点・課題

- ・他部課との連携を強化するとともに、福井県ふるさと文学館、三鷹市吉村昭書斎をはじめ、他館や他自治体との連携の幅を広げ、事業を展開することで、来館者の増加を図る必要がある。
- ・要望の多いイベントの実施や、友の会会員に向けた参加型イベントの実施等により、会員の満足度を高めるとともに、吉村文学の読者層を広げ、文学館への来館、新規入会・更新につなげる必要がある。
- ・ウェブ・SNSによるイベント情報の発信を通じ、文学館を身近に感じてもらうことで、若年者層等の新たな客層を呼び込み、吉村昭作品の貸出数の増につなげる必要がある。

題	
問題点・課題の改善策	

	令和5年度に取り組む 具体的な改善内容	令和5年度に実施した 改善内容および評価	令和6年度以降に取り組む 具体的な改善内容
①	多くの方が関心を持ち、来館いただける展示を行う。また、幅広く他館・他自治体と連携を進める。	戦艦「武蔵」建造時の器具等、多くの関係機関から借用した資料を展示したほか、長崎県や長崎市をはじめ他自治体・他館と連携を図った。	来館いただいたことがない方も興味を持ちやすい展示を行っていく。また、幅広く他館・他自治体と連携していく。
②	友の会の新規加入・更新継続がなされるよう周知方法を工夫するとともに、会員が楽しめるイベントの実施等を行う。	イベント開催時や他自治体・他館交流時に周知したほか、会員先行募集のイベントや「好きな吉村昭作品」の参加型企画を行った。	会員が楽しめるイベント実施等により、更なる魅力向上に努めるとともに、友の会会員向け情報発信等を引き続き行う。
③	ウェブ・SNS等によるイベント情報の発信を更に進めるとともに、クラウド型収蔵品管理システムによる資料の活用を行う。	メディア対応やSNS等により幅広い世代へ発信した。クラウド型収蔵品管理システムのデータ移行作業を進め資料調査に活用した。	ウェブ・SNS等によるイベント情報の発信を更に進める。クラウド型収蔵品管理システムによる資料の活用を促進する。

他 区 の 実 施 状 況	(実施 9 区 未実施 13 区 不明 0 区)
	文学館設置区 港区、新宿区、文京区、台東区、大田区、世田谷区、渋谷区、北区、練馬区

況 議 会 （ 要 質 問 状 ）	・平成18年 三定 記念館の設置要望について ・平成23年 四定 文学館開館に向けた事前周知について ・平成26年度 予特 友の会の設立について ・平成27年度 予特 文学館の開館後のイベントについて ・平成29年度 決特 文学館の周知、友の会、上映会について
---	--